



# 箱根八里(静岡県・神奈川県)

## 素材研究 (国内)

### 江戸時代の旅が追体験できる場所 街道の新たな魅力を発見

毎年正月になると駅伝の舞台としてドラマが繰り広げられる箱根の山。「天下の険」としても歌われる「箱根八里」が、2018年5月に「旅人たちの足跡残る悠久の石畳道」―箱根八里で辿る遙かな江戸の旅路―として日本遺産に認定されました。それぞれの観光地を線をつなぐことで、新たな魅力が見えてきます。



芦ノ湖に映る逆さ富士



江戸の守りであった箱根の関所



三島大社。三島宿は街道の門前町



小田原城

### 様々なドラマと作品を生んだ 江戸時代の主要幹線

このほど日本遺産に認定された「箱根八里」を含む東海道は、江戸時代に整備された五街道(東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道)の中でも屈指の交通量を誇る主要幹線で、現在の国道1号線もほぼこの旧東海道を踏襲しています。参勤交代の西国大名やオランダ商館長、朝鮮通信使、伊勢参りの庶民などがこの街道を通って日本を行き交い、街道上には「東海道五十三次」として宿場町や茶屋も整備されます。この道を舞台に『東海道中膝栗毛』の読み物が記され、歌川広重の浮世絵も描かれるなど、様々な名作も生まれました。

日本遺産「箱根八里」は、静岡県三島市、函南町、神奈川県箱根町、小田原市の2県4市町にまたがる、東海道の小田原宿から箱根宿までの四里(東坂)と、箱根宿から三島宿までの四里(西坂)を合わせた約32キロの部分です。標高846メートルの箱根峠を含む山道は東海道随一の難所です。芦ノ湖畔には江戸の守りの要として関所が置かれ、通行する人や物資を厳しく監視していました。

### 線で繋ぐことで見えてくる 新たな切り口に期待

「箱根八里」上には静岡県側には三島大

社が、神奈川県側は外国人にも人気の「箱根」や小田原城などがあり、個々に知名度の高い観光地として成立しています。そこを改めて線をつなぐと、城下町や宿場町、江戸時代に整備された石畳や杉並木、茶屋、関所のすべてが日本で唯一残る、当時の旅が追体験できる場所となり、ここに「箱根八里」日本遺産認定の物語と意図が浮かんでくるのです。

4市町村では今後は「箱根八里街道観光推進協議会」を中心に広域観光の方策を練っていくとしており「海外向けのファミトリップでPRを図るほか、個人の旅行者が静岡と神奈川県両サイドを一気通貫できる、例えば電動自転車レンタルの仕組みなども考えていきたい」と、三島市観光商工課係長早川大紀氏。また箱根町観光課係長の武藤淳一郎氏が「個々の地域で活躍しているガイドが、箱根八里のスルーガイドとしても活躍できるよう、協議会で勉強会を進めていると聞く。繋げてみたらおもしろい」という切り口で、この地域の新たな魅力発見につながれば」と話すように、既存の観光地への新風が期待されています。



往時を偲ばせる杉並木



静岡側の西坂から見る富士山